

広島県では、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律第10条第4項に基づき、平成26年度広島県献血推進計画を策定しました。今回は前回に引き続き、血液の目標量を確保するための具体的な実施事業について説明します。

県内約12万5千人の献血を目標

出張講座など若年層への働きかけ



県は広島県赤十字血液センターなどが実施する体験学習会やボランティア活動などに積極的に協力し、献血推進キャラクター等を活用した広報活動を実施します。また、200ミリリットル献血については、将来の献血基盤となる高校生などを若年層の初回献血を中心とし、教育委員会や血液センターと協力・連携して、献血や血液製剤に関する正しい知識の普及啓発を行います。

さらに、小学生向けには幼い時期から献血に関する知識を持たせるため、血液センターの見学会や出張講座などを行い、献血に触れる機会を積極的に設けます。また、成人式を迎える「はたち」の若者を中心に、献血を呼びかけています。次回も、計画の続きをご紹介します。

28日(平成27年1月1日～2月28日)を実施しています。広く県民の皆様に対し献血を呼びかけています。



血液製剤を安定的に確保するため、「はたち」の若者を中心に、献血を呼びかけています。次回も、計画の続きをご紹介します。

28日(平成27年1月1日～2月28日)を実施しています。広く県民の皆様に対し献血を呼びかけています。



【たばこ】 広島県の成人の喫煙率は15.3%(平成23年度)であり、成人男性については26.9%、成人女性については5.5%となっています。男性では30～50歳代の働き世代で30%を超えており、女性では20歳代及び40歳代で10%を超えています。

喫煙は『がん』の大きな要因

30歳代から歯周炎急増



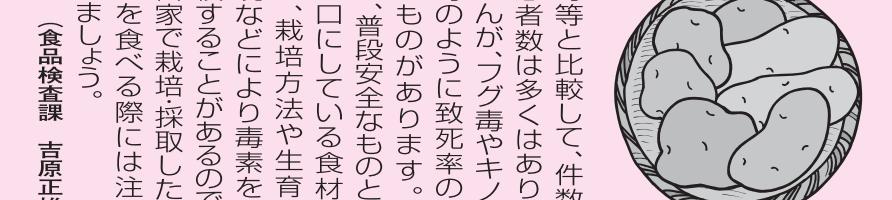
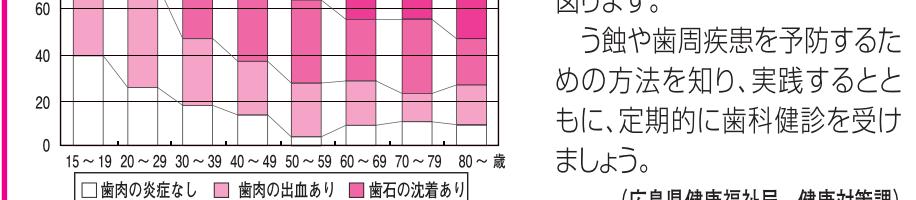
標に取り組むとともに、さらなる受動喫煙防止対策に取り組みます。喫煙は、がんの大きな要因であり、治療に悪い影響を及ぼすため禁煙しましょう。また、妊娠中の喫煙は妊娠合併症や出生後の乳幼児突然死症候群のリスクとなることから、妊娠を機会に禁煙しましょう。

【歯・口腔の健康】 平成23年度歯科保健実態調査によると、進行した歯周炎を有する人の割合は、20歳代では4.7%であるのに対し、30歳代で21.1%、40歳代で25.9%、50歳代で36.0%、60歳代で38.8%と30歳代での急激な増加がみられます。

そのため、20歳代からの職域や市町での歯周疾患検診の実施について推進したり、広島県歯科衛生連絡協議会などの関係機関と連携し、事業所における歯周疾患検診への取り組みなどを実施し、今後も普及啓発など歯科保健活動の充実を図ります。

う蝕や歯周疾患を予防するための方法を知り、実践するとともに、定期的に歯科健診を受けましょう。

(広島県健康福祉局 健康対策課)



(食品検査課 吉原正雄)